



結婚を機に住み始めた岐南町に
マイホームを建てました。

高井さん一家

夫/会社員
妻/パート
長男/6歳 次男/4歳

🏠 居住のきっかけ
夫の仕事の都合

🕒 岐南町歴
8年

💖 好きな点
交通の便が良く、
子育てもしやすい

子育てで知り合いが増えた 岐南町に家を建てることに

友人の紹介で知り合い、2017年の結婚を機に、夫の裕平さんの職場から近い岐南町にあるアパートに住み始めた高井さんご夫婦。「長男が生まれて町の子育てサロンに行くようになってから、知り合いがたくさんできたんです」と妻の絢子さん。「このまま岐南町に住み続けたいと思って不動

産のWEBサイトで町内の土地を探して、運良く3か月ほどで見つかり、2020年にこの家を建てることができました」。

実際に岐南町に住んでみると、こども園や保育園が多いことや、小学校も近くて徒歩で通えること、小中学校の給食費や高校生までの医療費が無料であること、高校生まで児童手当が支給されることなど、子育て支援が充実していることも知って、とても安心しました。

子育て世代が多く住み 交通アクセスの良さも魅力

現在、長男は小学1年生で、次男は町内のこども園の年少組に通っています。「家の周りは分譲地が多く、子育て世代のご家族も多く住んでいるので、子どもたちも一緒に遊べる同い年の友達が近所にたくさんいて喜んでいます」。学生時代からサッカーをやっている裕平さんの影響もあり、お子さんは2人ともサッカーが大好き。裕平さんがコーチをしている「岐南サッカースポーツ少年団」に入団して、土日祝日は北小学校のグラウンドで、チームのメンバーと一緒にサッカーの練習をしています。スポーツ少年団の練習がない休日も、近隣市町にある屋内運動施設や公園で、親子でサッカーの練習に励んでいます。

高井さんご夫婦にとって、岐南町は交通アクセスが良いところも大きな魅力です。数年前に裕平さんが名古屋市内の会社に転職することになった際も、名鉄名古屋本線で笠松駅から名古屋駅まで25分以内と通勤しやすいことがメリットに。絢子さんは週に数日、名鉄岐阜駅近くのクリニックでパート勤務をしていますが、最寄りの岐南駅まで自宅から徒歩で行けるため、通勤もとても便利です。仕事以外でも、公共交通機関で岐阜市のまちなかや名古屋市に出かけやすく、さらに国道21号と22号が通っているため、近隣の市町や他県の観光地への、車のアクセスも抜群。「岐南町は電車でも車でも、どこにでも行きやすいので、すごく便利です！子育てもしやすいし、岐南町にこだわって土地探しをして、本当に良かったなと思っています」。



高井さん一家の

よく行くおでかけスポットをご紹介します

📍 町内スポット

- アジャーラー岐南店 [カフェ]
- パティスリー ルコネートル [洋菓子]
- パティスリー リプレス [洋菓子]
- 和カフェ団栗 [カフェ]
- おんさい広場はぐり [JA直売所]
- 蛇池公園 [公園]

📍 町外スポット

- もとまるパーク (本巢市)
- カラフルタウン岐阜 (岐阜市)
- ナガシマスパーランド (桑名市)

📌 PICKUP / アジャーラー岐南店

“大人のための癒しのカフェ”がコンセプトの落ち着いた空間でモーニングからランチ、スイーツまでがゆったり楽しめます。ランチはメインを肉、魚、ハンバーグ、カレーから選べ、すべて地元農家の採れたて野菜のせいろ蒸しが付きます！ ※ご利用は10歳以上となります(離れ、貸切は除く)



住所：岐南町みやまち2-91 1F
TEL：058-214-3775

安全で安心な通学環境と、

これからの時代に

必要なスキルの向上に、

力を入れています。

ここでは、暮らしに寄り添う岐南町の支援や制度を紹介します。ご家族のライフステージに合わせたサポートがそろっています。

ICTや英語教育を通じて将来に生きる学び



小中学校の児童生徒が1人1台使用しているタブレットを最新端末に更新し、高速インターネット環境の整備と合わせて、快適な教育環境を整えています。また、グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力及び英語力の向上を図るため、英語検定の検定料を助成しています。

こども見守り支援事業

てのひらでそっと見守る安心

岐南町では、小学校の児童の保護者が、GPS機能を利用した見守りサービスに加入する際の端末代等の初期費用を補助しています。GPS機能を利用した端末により、児童がどこにいるか、どんな経路を通ったのが、リアルタイムでスマホのアプリの地図上に表示されるため、安心です。



学童保育

放課後も安心して預けられる場所

小学校の放課後や夏休みなどの長期休暇期間に、保護者が仕事などで家庭にいない状況が続く児童を対象に、各校区で学童保育を実施しています。申し込み多数の場合は、低学年やひとり親家庭などの保育の必要性が高い児童を優先します。

